

◇◇ 公 演 概 要 ◇◇

【公演名】横浜能楽堂普及公演 「人間国宝」が案内する能の名曲

【日時】平成29年7月2日（日）午後2時開演（午後1時開場）

【曲目】狂言「寝音曲」（和泉流）野村 万作

能 「土蜘蛛 勤入 さゝ蟹」（観世流）梅若 玄祥

※写真データご入用の場合はご一報下さい。

【チケット】料金：S席4,000円/A席3,500円/B席3,000円

能「土蜘蛛」（観世流）梅若玄祥

一般発売：発売中

【問合せ】横浜能楽堂 045-263-3055

<http://www.ynt.yaf.or.jp>

【主催】横浜能楽堂

（公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団）



出演者プロフィール

梅若 玄祥（うめわか げんしょう）

シテ方観世流。1948年生まれ。五十六世梅若家当主。祖父・二世梅若実、父・五十五世梅若六郎に師事。復曲、新作能も多数手がけるなど演出家としても活躍する。87年芸術選奨文部大臣新人賞、99年日本芸術院賞ほか受賞多数。06年紫綬褒章受章。日本芸術院会員。重要無形文化財各個認定保持者（人間国宝）。

野村 万作（のむら まんさく）

狂言方和泉流。野村万作家当主。1931年六世野村万蔵の次男として生まれる。父および祖父・初世野村萬斎に師事。90年度日本芸術院賞受賞をはじめ受賞多数。95年紫綬褒章受章。12年旭日小綬章受章。重要無形文化財各個認定保持者（人間国宝）。

あらすじ

狂言「寝音曲（ねおんぎょく）」

主人に謡を所望された太郎冠者は、酒を飲み、妻の膝枕でないと声が出ないと言って断ろうとする。主人は、酒を振舞い、自分の膝を貸して謡わせる。太郎冠者はしぶしぶ主人の膝枕で謡い始めるが…。お調子者の太郎冠者のお酒の飲みっぷりと謡いっぷりが楽しめる演目。

能「土蜘蛛（つちぐも）」

病床に臥せる源頼光のもとに怪僧（土蜘蛛の精）が現れ、巣糸を投げかけ襲いかかる。頼光は、病床より跳ね起き、太刀で切り付け応戦する。騒ぎを聞き、駆け付けた独武者は、従者とともに血痕を辿り、葛城山の古塚へと行き当たる。古塚を崩しにかかる、塚の内より土蜘蛛の精が現れ、独武者たちと土蜘蛛との戦いが始まる。蜘蛛の糸を投げかける場面は、他の能には例を見ない演出で、美しくも迫力ある見せ場となっている。また、小書（特殊演出）の「勤入」では、病床の頼光のため僧が祈祷する場面が入り、二人の間の緊張感をより高める演出となり、「さゝ蟹」では、間狂言で蟹の精が登場し、緊迫した物語の中でにぎやかで可哀しみのあるやり取りを見せる。